



私の履歴書

岩盤削孔技術協会会長
(社)日本建設機械化協会
施工技術総合研究所所長

加納 研之助

今回は加納会長の
「私の履歴書」をお
おくりいたします。



加納 研之助 (かのう けんすけ)

昭和22年 3月 東京都生まれ
昭和46年 建設省入社
平成10年 建設経済局 建機械課長
平成16年 (社)日本建設機械化協会
施行技術総合研究所 所長

■幼少時代

生まれたのは東京ですが、記憶がわずかでも残っているのは湘南の大磯の時代からです。

家は砂浜まで歩いてほんの5分もかからないところでしたが、海に出るまでに道路を一つ越えて行きます。そのころから既にコンクリート舗装された2車線の道路で、「ゆーほ一どうろ」という名前でした。今にして思えば「遊歩道路」だったのでしょうか。両側が松の防砂林で、歩道はありませんでしたが路側は広くてサイドウォークが通っており、別荘地大磯の、それらしい雰囲気のある道でした。印象に残っているのは、そこを米軍の車両が何10台も連なって通過していたことです。昭和20年代の後半です。

幼稚園にも入ったのですが行くのを嫌がったようで、今で言えば「登園拒否」ですが、母はあきらめて幼稚園に行かせるのをやめ、バイオリンを習うことになりました。鈴木氏の「才能教育」のバイオリン教室が始まっていたころです。教室は、といっても先生の自宅ですが、大磯にはなく、藤沢から江ノ電に乗り換えて週に一度鵜沼まで通っていました。

その後乗る機会はありませんが、今でも江ノ電と聞くと特別な懐かしさがあります。やはり窓の外には松が多く、駅を降りてからの道も砂地でした。

バイオリンは好きだったわけではありません。練習がいやでしたが、幼稚園に行くのを拒絶したという引け目の子供心にもあったのか、それでも毎日の日課という感じで続いていた。

才能教室は時々生徒の演奏会を開きます。プログラムが進んで小さい子もみんな弾けるやさしい曲になると100人を超えるような大合奏になりますが、演奏会が終わって母から「あなただけ弓が反対だったわよ」と言われました。バイオリンの弓は引いたら次は押すことになるので一度どこかで間違えるとしばらくはずっと反対になってしまうことになります。咎めるふうでもなく悲しそうだったわけでもありませんが私には堪えました。

100人の合奏で音を少し間違えても聴衆には誰が間違えたのか分からないでしょうが一人だけ弓が逆だったら目立つでしょう。何の曲だったのかなど何も覚えてい

ませんがそのことだけは忘れられません。

函南という小さな駅で降りたこと、みかんの畑がたくさんあったことも覚えています。なぜ大きな町でなく函南だったのか。何か大きなホールでもあったのでしょうかね？

大磯にはエリザベスサンダースホームという澤田美喜さんの有名な施設がありますが、母の学校時代のお友達に葉山で知的障害児のための施設をしている方がいました。多分やはり私財を投じての経営で、楽ではなかっただろうと思いますが、その頃ですから米軍かキリスト教関係が何かそういうところからの援助があったのでしょうか、葉山から母のところに遊びに来るときにアメリカ製の中古のおもちゃを持ってきてくれることがありました。

その中で繰り返し触っていたのが今で言う「レゴ」の金属バージョンのようなおもちゃでした。穴のたくさん開いた金属のプレートやアングルなどをボルトとナットで好きなように組み立てて行くものです。歯車はありませんでしたが車輪や軸受けもあり、ひもで荷物を巻き上げるようにしてクレーンなども作ることができました。箱にはもっとすごい絵が描いてあったのですがそれは作れないのです。技術ではなく部品が足りませんでした。少なくともそう思っていました。

家の広い庭には松の木ばかりがたくさんあり、季節には毛虫がすーっと落ちて来るのを平気で手でつかんでいました。風呂は1年中松の落ち葉で炊いていたような感じがします。竹箒でいくらでもある落ち葉を集めたり風呂釜の番をしたり、手伝いもよくしました。

庭の一部は畑になっていて、生活の足しにするつもりもあったのか、キュウリ、ナス、トマト、スイカ、カボチャ、サツマイモ、ジャガイモ、苺などよく獲れていました。草花も育てていました。よく覚えているのはアネモネ、ダリア、グラジオラス。

海水浴、七夕かざり、虫かご、黍細工、樟脳舟、豆電球。「小学一年生」とその付録が届けられるのを毎月本当に楽しみに待っていたような、子供らしい、また自然にも恵まれた大磯時代でしたが、小学校3年生の終わりごろ、ようやく小さな家を買って東京に戻りました。バイオリンですが、結局そこで投げ出すことになってしまいました。第4巻まで進んで来たその最後の「二つのバイオリンのための協奏曲」が途中になってしまったのは、今思うとなんだか少し残念です。

(岩盤削孔技術協会会長 加納 研之助)